

農政の動き 2015年5月15日～5月22日

◇TPP政府対策本部が一般市民向け説明会◇

TPP政府対策本部は、環太平洋連携協定（TPP）交渉に関する一般市民向け説明会を都内で開き、渋谷和久内閣審議官が物品市場アクセスや原産地規則などの分野について概要を説明した。TPPでは、国内産品よりも不利でない待遇を輸入産品に与える内外無差別の原則に違反しない限り、規制撤廃を求められないとした。参加者からは「説明会を全国各地で開いてインターネットでも公開するなど、情報をもっと開示してほしい」との意見が出た。（2015年5月15日）

◇世界の二酸化炭素排出量 統計史上初の横ばい◇

年々増加する傾向にあった世界全体の二酸化炭素（CO₂）排出量が、2014年は13年と同じ323億トにとどまったことが国際エネルギー機関（IEA）のまとめで分かった。世界経済が成長したにもかかわらず、排出量が横ばいで推移したのはデータがある過去40年間で初めて。（16日）

◇14年産リンゴ収穫量 10%増の81万6300ト◇

果実の肥大が良好だった2014年産リンゴの収穫量は、春先の低温などで作柄が悪かった13年産より7万4600ト（10%）多い81万6300トとなったと農林水産省が発表した。出荷量は7万100ト（11%）多い73万800ト、結果樹面積は13年産並みの3万7100畝だった。温州ミカンも、前回の裏年の12年産と比べて、収穫量が2万8400ト（3%）多い87万4700ト、出荷量は2万4700ト（3%）多い78万2千トだった。結果樹面積は、13年産より800畝（2%）少ない4万2900畝だった。（19日）

◇政府備蓄米 買い入れ予定数量の99.5%落札◇

農林水産省は、政府備蓄米の2015年産政府買い入れ入札結果（第7回、5月19日実施）を公表した。提示数量1702トに対し、落札数量は518トだった。落札数量の合計は買い入れ予定数量25万トに対し、約99.5%となる24万8816トとなった。次回は6月23日の予定。（20日）

◇日・モンゴルEPAで首脳会談◇

安倍晋三首相は、モンゴルのエルベグドルジ大統領と官邸で会談した。安倍首相は、日・モンゴル経済連携協定（EPA）の国会承認を踏まえ、両国の「戦略的パートナーシップ」をさらに発展させたいと述べた。同EPAでは、農産物貿易について日本側は、一部の牛肉調製品で関税割当を措置するほか、米や麦などは関税撤廃などの対象から除外した。なお、モンゴルでは口蹄疫が発生しており牛・豚肉などの輸入実績はない。モンゴル側は切り花や果実、みそ、しょうゆなどの関税を即時または段階的に撤廃する。（20日）

◇TPP閣僚会合取りやめ 次回日程は未定◇

甘利明TPP担当相は閣議後の記者会見で、月内に予定されていた環太平洋連携協定（TPP）交渉の閣僚会合の開催が取りやめになったと正式に発表した。次回の開催予定は決まっていないという。甘利氏は、米領グアムで開かれている首席交渉官会合が28日ごろまで開かれることも明らかにした。当初は25日までの予定だった。甘利氏は「28日ごろまでだが、少し早く終わるかもしれない」とも述べた。

べた。次回の閣僚会合開催に関しては、米国の貿易促進権限（TPA）法が成立する見通しが前提になるとの見方をあらためて示した。（22日）